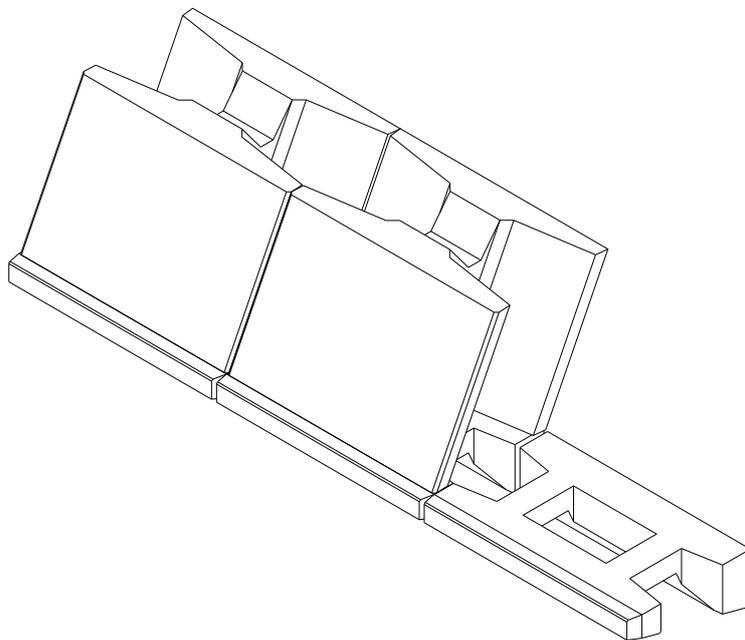


i-Construction推進製品・大型ブロック積擁壁

I型ブロック基礎盤

施工マニュアル



平成31年3月

高知県コンクリート製品工業組合

目 次

1. 製品の特徴	3ページ
2. 打合せ	4ページ
3. 基礎工	4ページ
4. 床掘施工	4ページ
5. 吊り込み	5ページ
6. レベル調整	6ページ
7. 基礎盤の連結	6ページ
8. I型ブロックの据え付け	6ページ
9. 胴込めコンクリートの打設	7ページ

1. 製品の特徴

高知県は、平成30年9月7日付け30高道路第369号の文書で大型ブロック積擁壁の基礎構造について通知しました。

通知文書には、大型ブロック積擁壁は、基礎コンクリートとブロックが一体化された構造とする必要があると記載されています。

当組合は、平成30年11月、この通知に合致したI型ブロック基礎盤を開発しました。

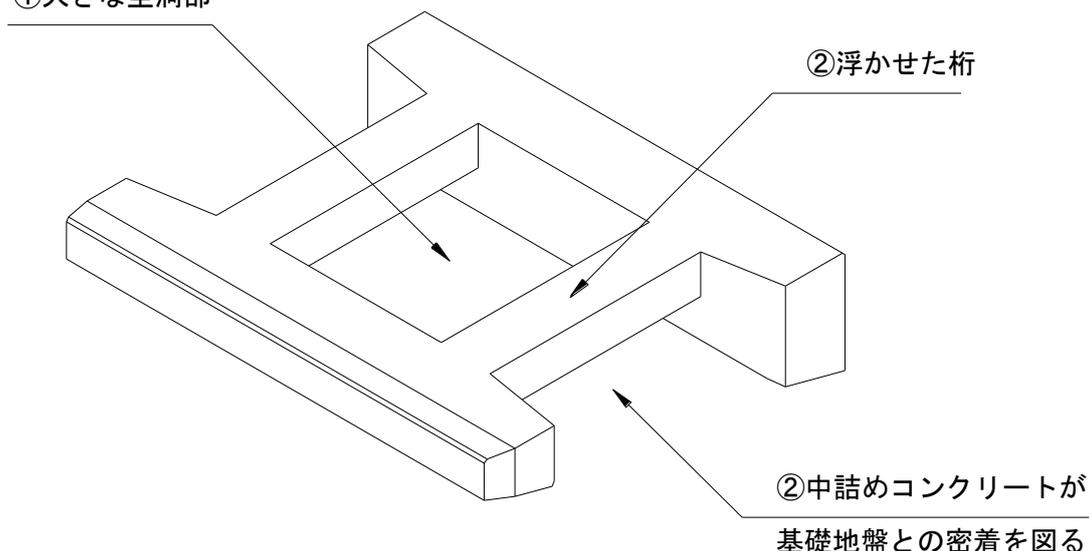
製品の特徴は、次のとおりです。

①基礎盤とブロックは、中詰コンクリートで一体化させますが、基礎盤の中央の空洞部を構造上支障のない範囲で大きくし、充填する中詰コンクリートの体積を大きくしました。

このことにより、従来、現場打ちコンクリート基礎とブロックを接合するための補強鉄筋や用心鉄筋が不要となりました。

②基礎盤と基礎地盤との密着をよくするため、基礎盤の桁の部分をつかせる構造としました。このことにより、充填する中詰めコンクリートと基礎地盤との密着面積が大きくなり、大型ブロック積擁壁全体の安定性の向上が図られました。

①大きな空洞部



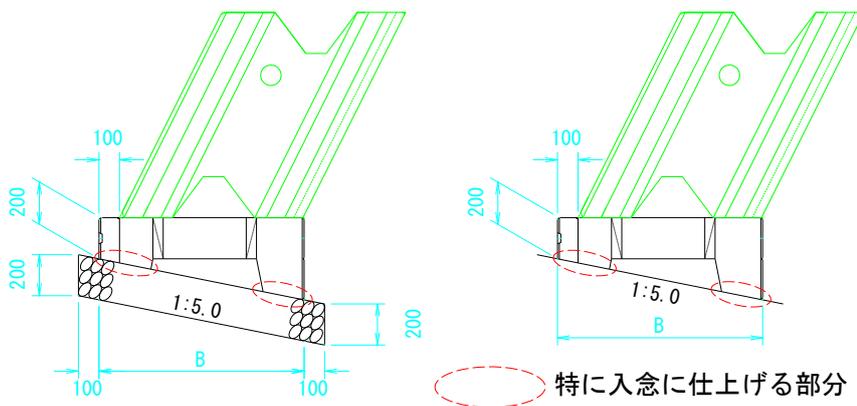
2. 打合せ

施工に当っては、設計図書を確認して発注者の同意を得てから施工してください。

3. 基礎工

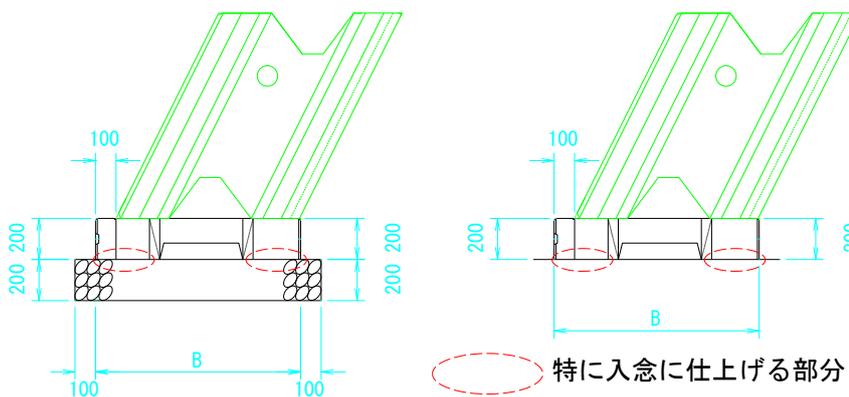
発注書の基礎碎石の有無と、基礎底面が水平か傾斜しているか確認してください。

基礎図の例



a.【底面勾配・碎石有】

b.【底面勾配・碎石無】



c.【底面水平・碎石有】

d.【底面水平・碎石無】

4. 床掘施工

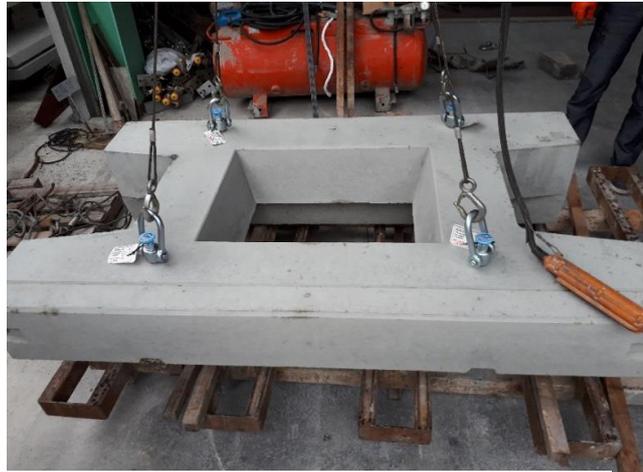
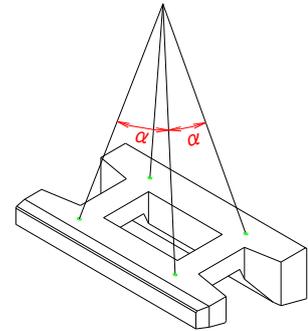
床掘、基礎碎石を適切に施工します。

特に基礎盤と接する前端及び後端部分は不陸のないよう丁寧に仕上げてください。

吊り角度 α は60度以内

5. 吊り込み

基礎盤を専用の吊り金具で吊り込みます。
この時、基礎盤のアンカーに異常がある場合はただちに施工を中止してください。
また、吊り込み時には金具を確実にかけた後、ゆっくりと吊り上げてください。
控800、1000はVハンガー金具とデーハー金具。
Vハンガー金具の場合は、次のとおり。

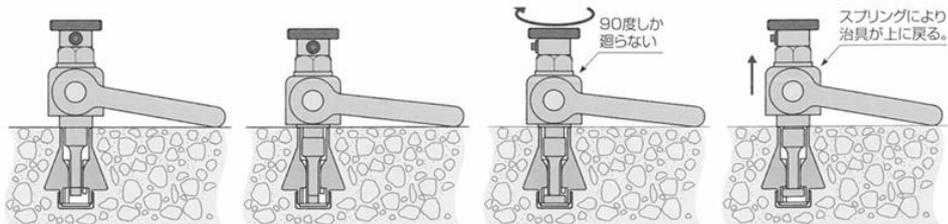


斜め吊り対応治具取付方法

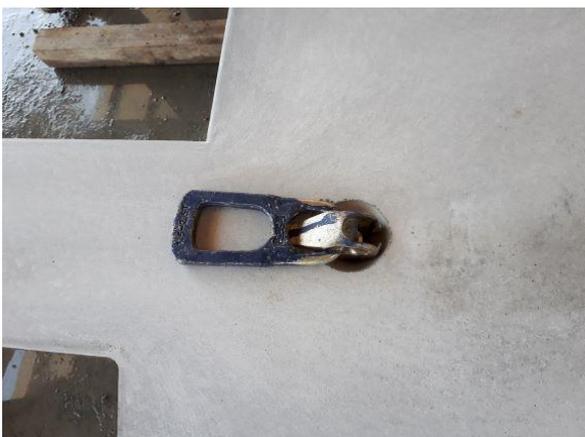
治具を入れて押し込み右に廻して手を放す。

① → ② → ③ → ④

- ① 治具を奥まで入れる → ② 治具を押し込む → ③ 治具を押し込んだまま右へ90度廻す → ④ 治具を放す 取付完了



控1250、1500、1750、2000はデーハー金具





6. レベル調整

基礎盤は、レベルプレートや空モルタル等でレベル調整してください。

7. 基礎盤の連結

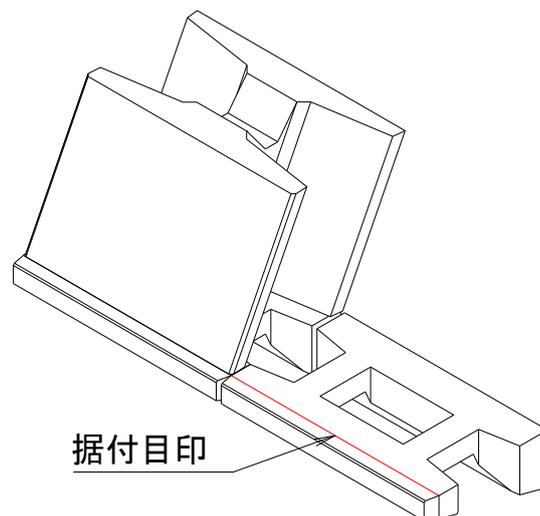
基礎盤を複数個使用する場合は必ず連結プレートを使用してボルトで固定してください。



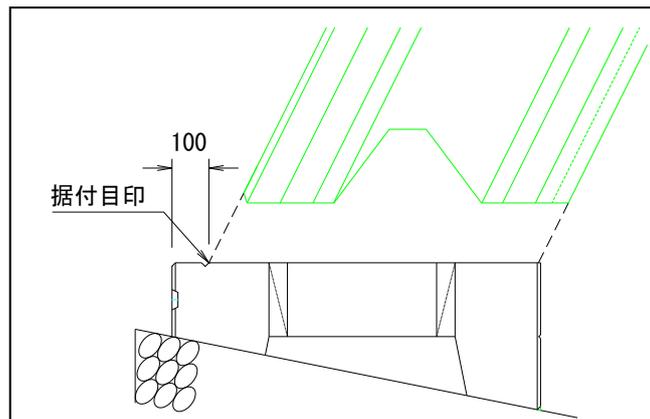
8. I型ブロックの据え付け

基礎盤を据え付けたら、次に1段目のI型ブロックを積み上げてください。ここで重要なのは、I型ブロックを積み上げる前に基礎盤に中詰めコンクリートを入れない事です。据え付け位置は滑面、擬石面で異なりますので下図を参照してください。

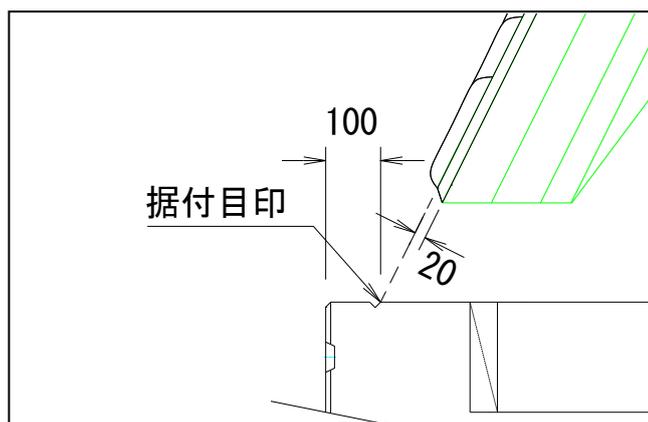
据付目印



滑面



擬石面



※擬石面の製品を使用する場合は面取りの角が目印から2cm後方

9. 中詰めコンクリートの打設

必ず、1段目のブロックを積み上げてから基礎盤の中詰めコンクリートとブロックの中詰めコンクリートを同時に打設してください。

(※基礎盤とブロックを一体化するため)

ただし、ブロックの中詰めコンクリートは、ブロックの天端から20~30cm残して打設してください。

